

冬季における労働災害の発生概況

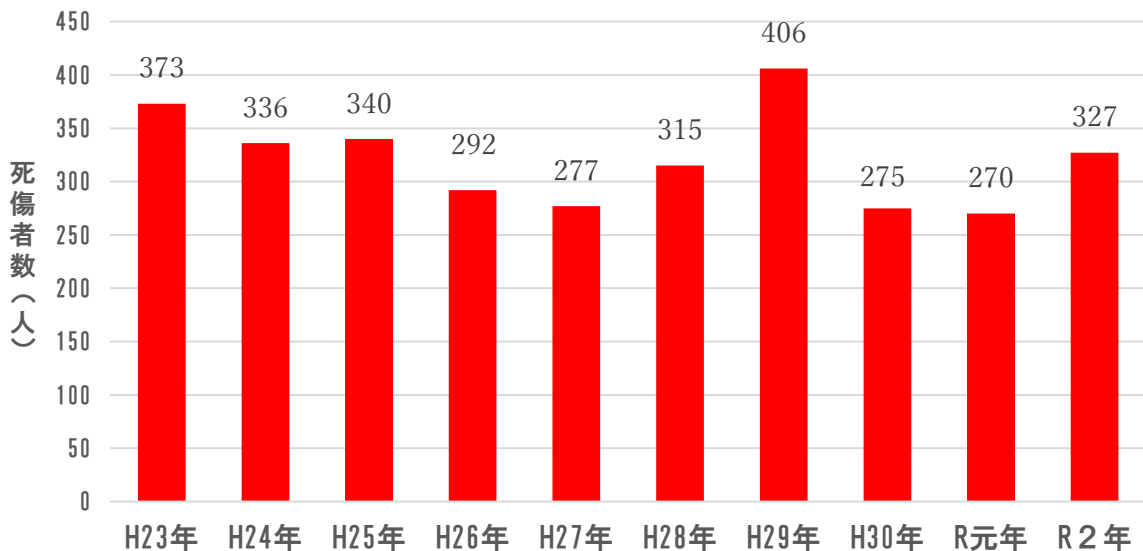
富山労働局
令和3年11月

1. 冬季における死傷者の推移

過去10年の冬季（毎年12月～翌年2月。以下同じ。）における労働災害の死傷者数（休業4日以上。死亡者を含む。以下同じ。）を集計したところ、次図のとおりとなった。

平成22年以降減少傾向が続いていたが、平成29年の冬季には前年より大幅増加となる406人が死傷した。以後、平成30年と令和元年は270人台となっていたが昨年は327人と大幅な増加となった。

冬季における労働災害死傷者数（過去10年、各年12月～翌年2月）



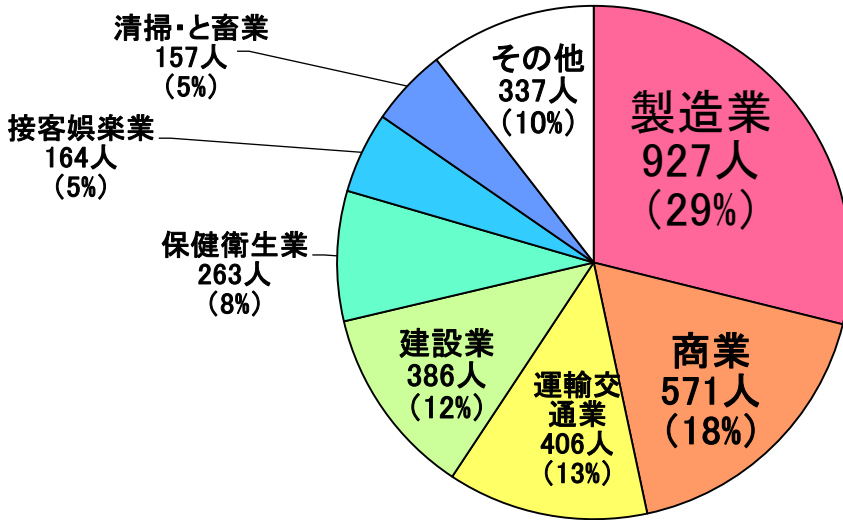
2. 業種別労働災害発生状況

過去10年の冬季における労働災害の死傷者数を業種別に集計したところ、次図のとおりとなった。

最多の製造業で927人（28.9%）、次いで商業571人（17.8%）、運輸交通業406人（12.6%）、建設業386人（12%）、保健衛生業263人（8.2%）などとな

った。

冬季における業種別労働災害死傷者数（過去10年、12月～2月）



| 参照データ：富山県内就業者数 | |
|------------------|----------|
| 総数 | 538,839人 |
| うち製造業 | 131,599人 |
| 卸売業、小売業 | 80,328人 |
| 運輸業、郵便業 | 23,984人 |
| 建設業 | 46,354人 |
| 医療、福祉 | 67,008人 |
| 生活関連サービス業、娯楽業 | 18,689人 |
| サービス業（清掃・と畜業含む。） | 30,191人 |
| （平成27年国勢調査より引用） | |

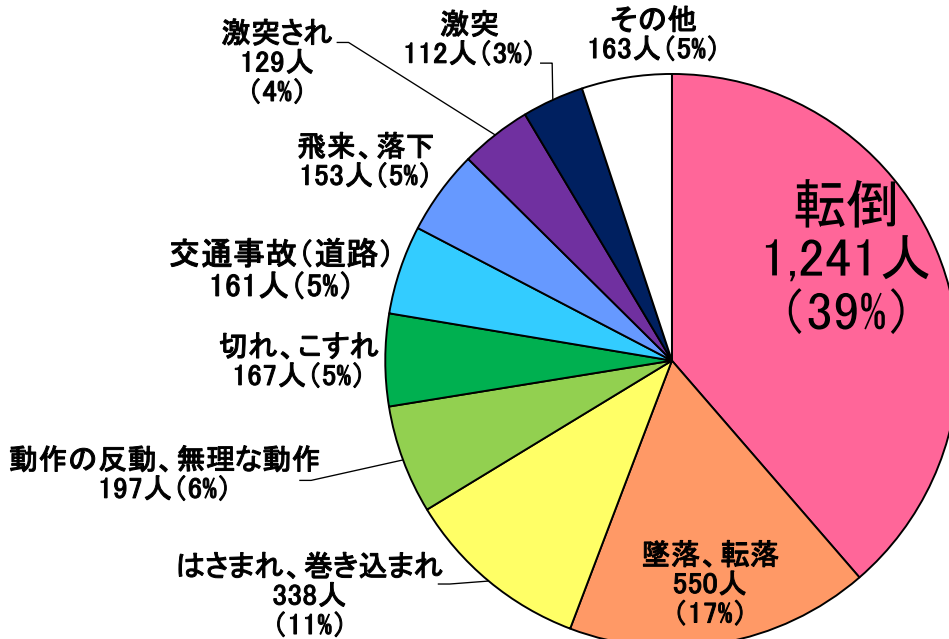
3. 事故の型別労働災害発生状況

過去10年の冬季における労働災害の死傷者数を事故の型別に集計したところ、次図のとおりとなった。

最多は、転倒災害の1,241人（39%）であり、他の型よりも圧倒的に多い。次いで墜落、転落の550人（17%）、はさまれ、巻き込まれの338人（11%）などとなったほか、交通災害（事故）も161人（5%）と一定割合を示している。

北陸特有の災害としての、屋根除雪中の墜落、転落は、「墜落、転落」に含まれ、除雪機械による災害は「はさまれ、巻き込まれ」に含まれる。

冬季における事故の型別労働災害被災者数（過去10年、12月～2月）



4. 過去5年における冬季環境を要因とした死亡災害

過去5年における労働災害による死亡災害のうち、冬季環境を要因とするものを下表に示す。

| | 発生時期 | 業種 | 年代 | 経 験 年 数 | 災 害 発 生 状 況 |
|---|----------------|---------------------------|-----------|------------------|--|
| 1 | 平成 28 年 1 月 | 化学工業 | 50 歳 代 | 28 年 | 凍結した屋外通路を歩いていた際に仰向けに倒れ頭を強打し、3日後急性硬膜下血腫により死亡した。 |
| 2 | 平成 30 年 1 月 | 建築設備 工事業 | 40 歳 代 | 4 年 | 被災者が運転する車が、対向車線にはみ出し、対向車線を走行していたトラックと衝突し死亡した。 |
| 3 | 平成 30 年 1 月 | 自動車・ 同付属品 製造業 | 60 歳 代 | 28 年 | 積雪により車の運行ができなくなった事業場駐車場において、夜勤明けの帰宅のため駐車場の除雪を待っていた被災者が、午後2時過ぎ、マフラーが雪に埋りエンジンがかかったままの自家用車の車内においてぐったりしているところを発見され、一酸化中毒により死亡した。 |
| 4 | 平成 30 年 2 月 | その他の 精密機械 器具製造 業 | 40 歳 代 | 4 年 | バケット装着のフォークリフトを使用して事業場に隣接する農道において除雪作業を行っていた被災者が、路肩から約4メートル下の用水にフォークリフトごと転落し、フォークリフトの下敷きとなり死亡した。 |
| 5 | 令和 3 年 1 月 | 新聞配達 業 | 70 歳 代 | 42 年 | 早朝より新聞配達を行っていた際にガソリンスタンド構内を通行していたところ、構内の積雪した箇所から隣接する用水路（幅2m、高さ2m、水深20cm）に転落し、その後、約200m離れた箇所で溺死した状態で発見されたもの。当日、約90cmの積雪があった。 |

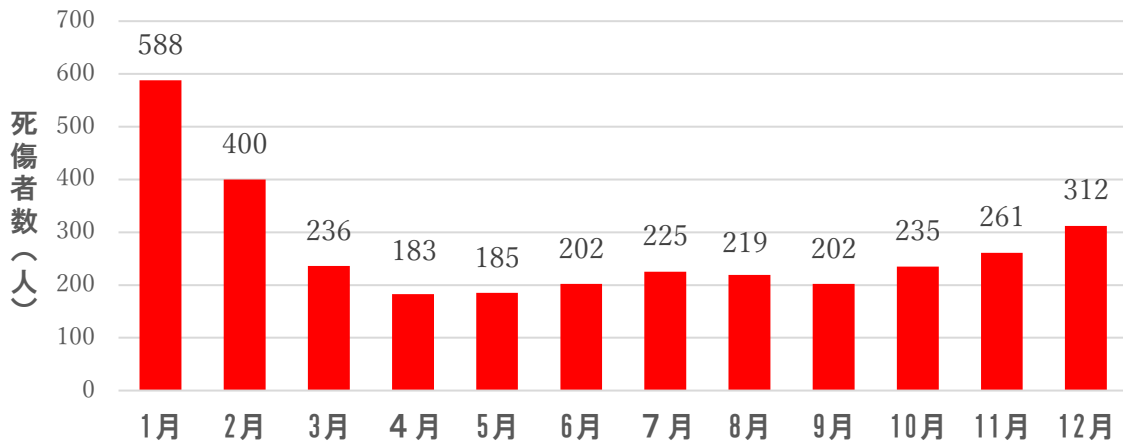
5. 転倒による労働災害発生状況の詳細

(1) 月別発生状況

過去10年間における富山県内の転倒災害を発生月別に集計したところ、次図のとおりとなった。

最多は1月の588人、次いで2月の400人、12月の312人となっており、12月～2月に転倒災害が多発する傾向にあることが認められる。

転倒災害による月別死傷者数（過去10年間）

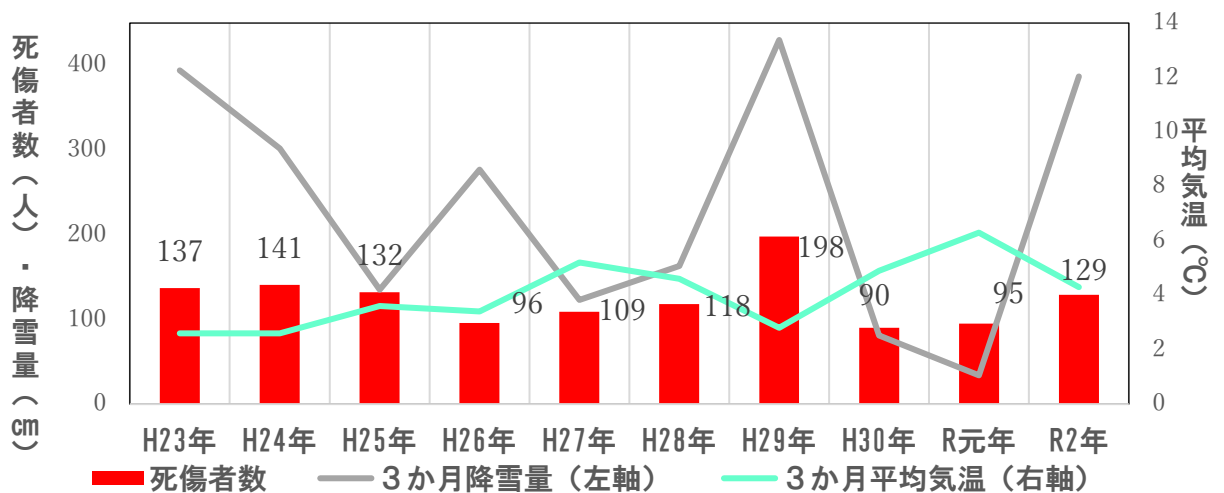


(2) 過去10年における死傷者数の推移

過去10年の冬季における転倒災害の死傷者数の推移を集計したところ、次図のとおりとなった。

平成23年に137人が被災し、それ以降概ね減少傾向にあったが、平成29年には198人と激増し、令和2年は129人と前年に対し激増した。なお、同図において期間中の降雪量と平均気温を示したが、概ね、降雪量に比例し、平均気温と反比例している状況が認められる。(気象情報は気象庁ホームページより引用)

転倒災害による死傷者数の推移（過去10年、各年12月～翌年2月）



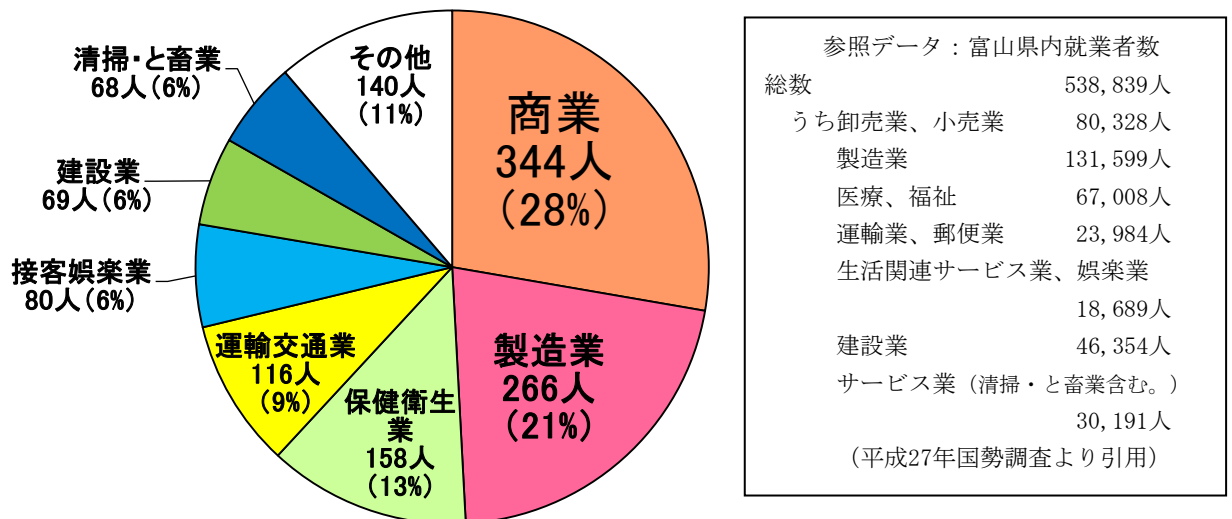
(3) 業種別発生状況

過去10年の冬季における転倒災害による死傷者数を被災者の業種別に集計したところ、次図のとおりとなった。

最多は商業の344人(28%)、次いで製造業266人(21%)、保健衛生業158人(13%)となり、冬季の労働災害による全死傷者数とは異なる傾向を示した。

冬季における全死傷者数では、商業が2番目に、保健衛生業が5番目に多かったが、転倒災害に限れば、商業が1番目に、保健衛生業が3番目に多い業種となった。

転倒災害の業種別死傷者数（過去10年、12月～2月）

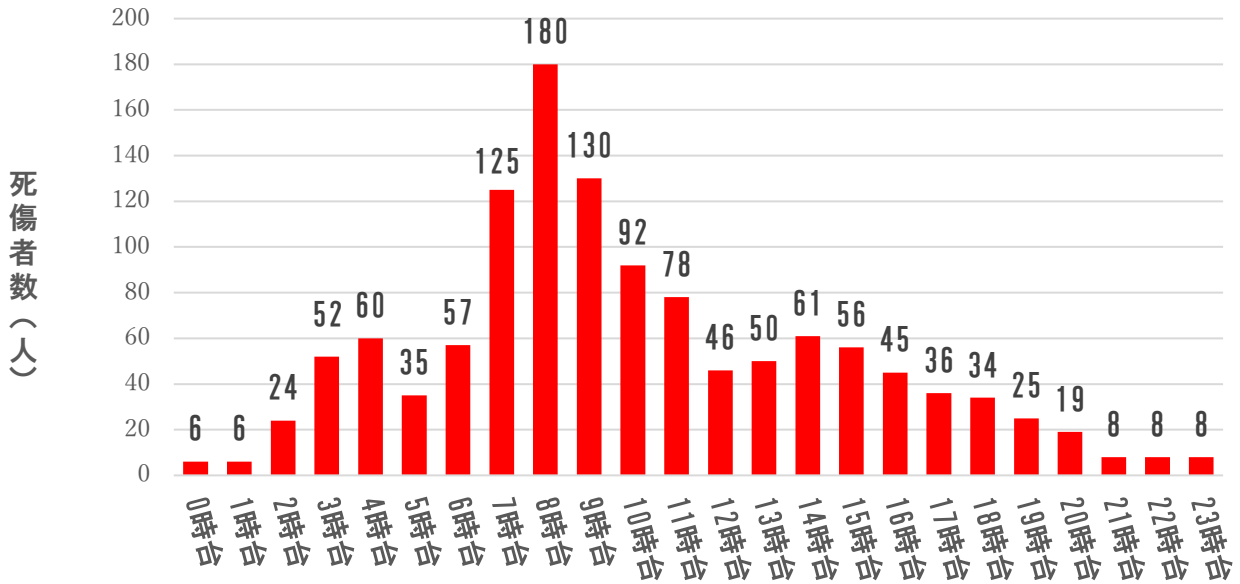


(4) 時間帯別発生状況

過去10年の冬季における転倒災害を発生時間帯別に集計したところ、次図のとおりとなった。

最多は午前8時台の180人、次いで午前9時台130人、午前7時台の125人、午前10時台の92人、午前11時台の78人などとなった。12時台になれば他の時間帯と概ね同人数となっていることから、午前7時～午前12時までの間に転倒災害が多発している傾向がみられる。

転倒災害による発生時間帯別死傷者数（過去10年、12月～2月）

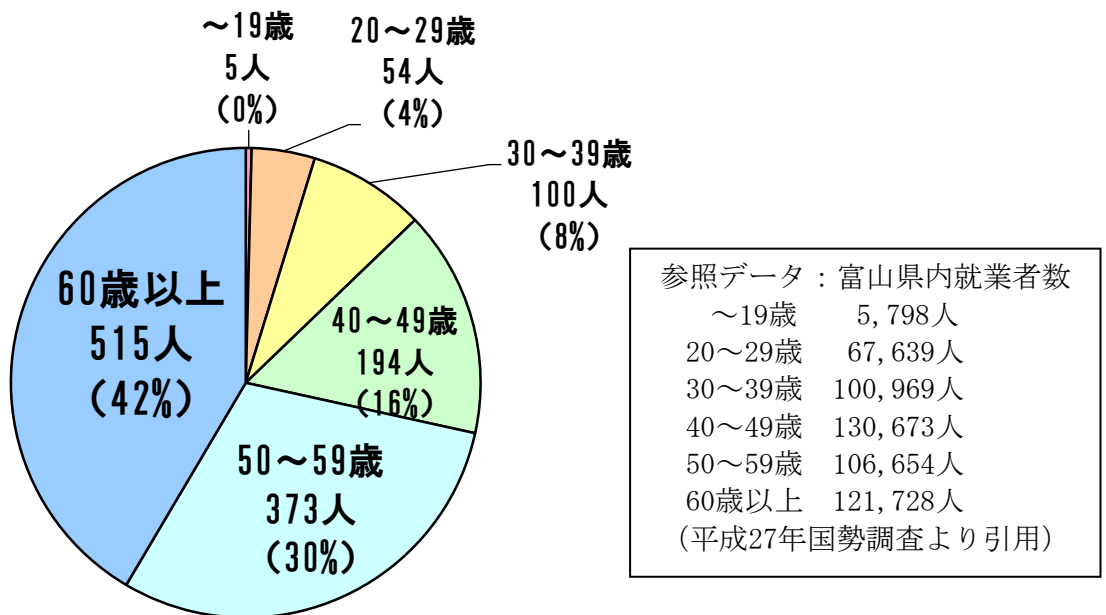


(5) 年代別発生状況

過去10年の冬季における転倒災害死傷者数を被災者の年代別に集計したところ、次図のとおりとなった。

最多は60歳以上の515人(42%)、次いで50～59歳の373人(30%)となった。50歳以上の被災者が7割超を占めている。

転倒災害の年代別死傷者数（過去10年、12月～2月）



(6) 転倒災害による被災者の年代別休業日数

過去10年の冬季における転倒災害死傷者について、被災者の年代別、休業日数別に集計したところ、次図のとおりとなった。

30歳未満の被災者では、その54%が休業30日未満で業務に復帰しているが、60歳以上の被災者ではそれがわずかに32%にとどまっており、休業60日以上
以上の被災者の割合が30歳未満の2倍以上となっている。

転倒災害による被災者の年代別休業日数の割合

